

令和3年度事業の実績報告

①河川清掃団体調査

河川清掃団体の所在データ等の収集・デジタル化統合およびデータ整理・分析ならびに協議会事務局業務支援業務

○（目的）

河川の清掃団体の所在・活動エリア・回収量、活動のために支出される自治体からの予算措置状況等を把握し、公開済みの川ごみ分布の地図情報データベースに集約することで散乱ごみ対策のための人的・財政的リソースの効果的な配分に結び付けられる仕組みを構築する。また、市民が入力できる地図情報システムを一般開放する。さらに地図情報データを政策展開用に整理・分析を行う。

○（実施箇所） 4 県

○（実施結果）

4 県河川担当課から清掃団体の情報を入手・整理。清掃団体の活動エリア（右岸、左岸、延長等）を河川ごみのデータプラットフォームに統合。河川ごみのホットスポットは清掃団体の活動が及んでいないところや活動頻度がごみの発生量を下回っているようなところ等。今後の展開としては清掃団体が活動記録や活動募集を地図上で行えるようなインターフェイスを作成したり、清掃団体の活動エリア登録を行い自治体が状況把握に使えるようにしたりなど。

また、水門樋門の場所及びそこのごみの量を市民が入力できる地図情報アプリを作成公開。

②底曳き網漁師調査

海底ごみの回収キャパシティーおよび漁具・漁港ごみ回収実態等基礎データ把握業務

○（目的）

海底ごみを回収している漁港や用いている漁具、回収エリア、回収量などを把握し、回収状況や課題を整理する。

○（実施箇所） 4 県

○（実施結果）

瀬戸内 4 県の底曳き網漁の許可状況及び海底ごみの回収状況について 4 県水産部局及び県漁連等で調査を行い、一定規模以上の操業実績を有する漁協・支所からヒアリング調査を実施、GIS（地理情報システム）に統合。沿岸近くの底曳き網漁の操業禁止区域の海底ごみはほとんど回収されておらず、建網や小型定置網などでも海底ごみは回収されている。海面や海中ごみもかかっているため、漂流ごみの回収も必要。

③ごみ排出状況調査

ごみ排出・ごみ拾い行動に付随するストレスを低減して散乱ごみの少ない地域づくりを進めるための現地実態把握・実践対応方策検討業務

○（目的）

家庭ごみの行政回収の実態、回収場所の配置・距離、通勤・観光時の屋外消費ごみやポイ捨てごみ拾い後のごみ回収実態等を整理し、ごみ排出・ごみ拾い行動に付随するストレスを低減して散乱ごみの少ない地域づくりを進めるための現地実態把握・実践対応方策を検討する。

リユース容器を用いる形態での量り売りビジネスが成り立つ条件、マーケット規模、課題等を調査し、量り売りビジネスを推進するうえでの基礎情報を整理する。

使用済み PET ボトルの回収・リサイクルフローの効率化による CO2 削減効果を算定する。

○（実施箇所） 広島、香川

○（実施結果）

家庭ごみの排出状況を広島県広島市の八幡川・古川及び呉市の黒瀬川流域の河川から約 50m の範囲にあるごみステーションについて調査。屋外消費ごみの散乱状況を住宅、観光地、駅、繁華街等で調査を実施。対策案としては、最近減りつつある回収ボックスの設置数を増やす、地域の回収拠点を作る、監視カメラ・AI カメラの設置等。

リユース容器を用いた量り売りビジネスについて全国を対象として事例調査、課題整理、環境負荷低減効果を試算。普及対策としては量り売り店舗の可視化、地域自主デポジット制度の設立等。

使用済み PET ボトルの回収・リサイクルフロー変更による CO2 削減効果を香川大学、香川県庁を対象に試算。9 案試算し増減は-144～+5795kg-CO2/年。

④衛星画像 AI 分析技術を活用した愛媛県佐田岬以南の海岸漂着ごみ散乱実態調査

○（目的）

瀬戸内海には無人島や、崖に囲まれたリアス式海岸、干拓地に広がる大河川の河口中洲、ヨシが茂る河岸など、漂着ごみの清掃のために近づくことのできないアクセス困難エリアが多数存在している。この中から無人島や崖に囲まれたリアス式海岸の漂着ごみについて人工衛星を利用した調査方法について検討する。

○（実施箇所） 愛媛

○（実施結果） 愛媛県西岸はリアス式海岸であり、立ち入りが困難な地域が多く、調査費用も高額となるため、最新の衛星画像撮影・AI 分析技術を活用して実態調査及び改修優先箇所とモニタリング計画等を提示。

岡山県笹ヶ瀬川で実施した日本財団主催の清掃イベントと連携し活動前後のごみ散乱状況を分析するための分析用ドローン映像を撮影。

⑤ 摺鉢谷川・高松漁港エリア

地域モデル事業（摺鉢谷川・高松漁港エリア）における会議運営等業務

地域モデル事業（香川／摺鉢谷川・高松漁港エリア）におけるキックオフ清掃イベント運営業務

○（目的）

地域の特徴を捉えて、地域状況に応じた海洋プラスチック問題解決に向けた活動を実施し、課題や成果を蓄積、同様の特徴を持った地域へ横展開を図る。

○（実施箇所）香川

○（実施結果）

典型的な都市河川である摺鉢谷川の周辺住民や高松市中央卸売市場の職員等がバラバラに行っていた清掃活動をそれぞれの主体を引き合わせ、地域に適したプラスチックごみ対策の課題や成果を蓄積するモデル事業を実施。地元住民、中央卸売市場、漁師、香川大学、市役所等が参画し、海洋プラスチック問題について、直面する課題の共有、各主体ができることを議論（計3回開催）。清掃活動を実施する活動の輪を広げたい、大学生ももっと地元と関わって活動を行いたい、仲卸しで利用している発泡スチロールの環境への影響や解決策を考えたいといった意見が出た。

各主体が集まって調査も兼ねて清掃活動を実施、気づいたことを共有（22名・245kg回収）。メディアを通じて活動をPR。

⑥ コミュニケーションビジュアル

コミュニケーションビジュアル等のデザイン制作業務

○（目的）

各種モデル事業やキャンペーン等の啓発活動を効果的に行うため、素材となるコミュニケーションビジュアル等のデザインを制作する。

○（実施箇所）香川

○（実施結果）

スナメリをモチーフとしたキャラクターを制作。地域モデル事業で使うのぼり等にも活用。

⑦ 用水路調査・連携清掃活動のボランティアコーディネート

用水路調査・連携清掃活動のボランティアコーディネート業務

○（目的）

⑫ 笹ヶ瀬川ごみ回収に合わせて、地域の清掃団体等による協力・連携を実践する。また、地域ボランティアの一員の高校生グループの水門位置情報調査アプリのモニター参加により実効性を確認する。

○（実施箇所）岡山

- (実施結果) 岡山県の笹ヶ瀬川河口部での回収・処理実証事業と連携した、プロとボランティアのネットワークを形成 (140 名)。水門シビックテックの実践支援(70 名)。高校生・看護学生・地域住民・環境市民団体などを巻き込みメディアを通じて社会問題と活動を PR。

⑧メディア啓発

瀬戸内オーシャンズ X 共通クリエイティブ制作および推進協議会発信体制構築業務

- (目的)

日本財団「CHANGE FOR THE BLUE」発足段階から事業や関連事業を担い、海洋ごみ関連の豊富な映像素材を有し、趣旨を理解したクリエイティブ制作チームを抱えているというリソースを最大限に発揮させ、瀬戸内オーシャンズ X の発足までの間に日本財団が活用してきた映像素材を協議会が利用できるような関係する権利やデータ格納形式を整理するとともに、共通クリエイティブ制作、協議会 Web サイト作成および発信体制構築等を行う。

- (実施箇所) 4 県

- (実施結果) 瀬戸内オーシャンズ X に先鞭をつけた日本財団の情報発信スタイルや、これまで撮りためられてきた素材等を継承・活用できるように関係する権利やデータを整理し、共通動画 (15 秒) を 3 本、縦横 2 タイプのポスターなど周知啓発用共有素材を制作。

⑨河川ごみ全量回収調査

河川散乱ごみ目視調査および散乱ごみ全量回収計量調査業務

- (目的)

河川散乱ごみの全量回収をすることで目視による河川ごみ調査の散乱プラごみ分布強度から、散乱プラごみ重量を推定する換算係数の精度向上を図る。併せて、全量清掃後から散乱ごみが再び顕在化してくるまでの過程を観察するための現地初期条件を整える。

- (実施箇所) 香川

- (実施結果) 香川県高松市を流れる御坊川を完全清掃し、割れ窓理論も応用してポイ捨てをしにくい河川環境づくりを実施。総延長約 12 km プラごみ約 900kg を含む約 1600kg のごみを回収。メディアを通じて活動を PR。目視調査と現地ごみ回収直接調査との関係性を明らかにする実測データを併せて取得。

<日本財団と連携した活動>

⑩河川ごみ調査

- (目的)

4 県流域人口カバー率 60% の河川のごみ分布を調査し、地図情報データベースに集約。海ごみになる河川ごみの対策を進める基礎データとする。

○（実施箇所） 4 県

○（実施結果）

4 県総延長 1,188 k m の河川ごみ分布を調査。10 月に広島県で結果を公表。視覚的にわかりやすい形式にまとめてインターネット上で公開。

⑪海底ごみ調査

○（目的）

4 県海域の海底ごみの状況を AUV（自律型無人潜水機）や底曳き網により調査し、海底ごみの分布や効率のよい回収方法等を検討する基礎データとする。

○（実施箇所） 伊予灘、安芸灘、燧灘

○（実施結果）

広島、愛媛の海域で AUV 調査を実施するとともに異なる漁具（洗車こぎとビーム）で底曳き網で回収されるごみ調査を実施。データ分析。

⑫笹ヶ瀬川ごみ回収

○（目的）

アクセス困難エリアのごみの回収方法の確立を図るために、ヨシ等によりボランティア清掃が困難な箇所での回収を実施。併せて河川河口付近に堆積しやすいごみの種類の調査を実施する。

○（実施箇所） 岡山

○（実施結果）

約 1500 平方メートルに渡って散乱していたプラスチックごみなど計約 10 トンを回収。「漂着防除隊」30 人のほか、地元ボランティア団体や町内会、学生約 70 人の計約 100 人、そして現場を視察した岡山県の伊原木隆太知事と日本財団の笹川陽平会長が活動に参加。

⑬中小企業の海洋プラスチック対策調査

○（目的）

中小企業の海洋プラスチック対策の状況を調査し、企業の得意分野等を整理。企業間連携の促進を進める基礎データとする。

○（実施箇所） 4 県

○（実施結果）

リバネスから中小企業へアンケート調査を発送し情報を整理。

⑭海洋環境デザイン教育

○（目的）

学校現場で授業を通じて海洋課題を解決するために必要な取組みやデザインについて対話を重ねながら必要なアクションを実践し、子どもたちに海ごみ問題を自分事化させる。

○（実施箇所） 4 県ほか

○（実施結果）

各県 1 校ずつ実施中。また、追加募集により岡山県でも 2 校（高梁小学校／日生西小学校）開始。